

数学オリンピック財団から 4

財団理事長 小林一章

今年は第49回世界数学オリンピック大会（IMO）が7月15日から22日までスペインのマドリードで行われ、そのための国内予選、本選が2008年1月14日（成人の日）と2月11日（建国記念の日）に行われました。予選の受験者は1476名、その内122名が選抜されて本選に臨みました。1月14日は同時にジュニア数学オリンピック大会が行われ、859名が受験し、その内12名が選抜されて同じ本選に臨みました。昨年の春の合宿参加者7名は予選が免除されていますので、あわせて138名（141名中欠席者3名）が本選を受験し、その内21名が日本代表候補者として春の強化合宿に参加しました。今年はジュニア数学オリンピックから、本選に進出し、更に春の合宿に到達した生徒はいませんでした。（過去にはそういう生徒も居り、更には日本代表になった例もあるのですが。）本選の結果で日本数学オリンピックとして次の生徒が表彰されました。

川井杯・金賞	保坂 和宏	開成高等学校	1年
銀賞	関 典史	灘高等学校	2年
銅賞	今村 志郎	灘高等学校	1年
銅賞	副島 真	筑波大学附属駒場高等学校	1年
銅賞	浅野 知紘	灘高等学校	2年
以下成績優秀者	16名	（学年は、2008年3月現在）	

本選の結果と春の合宿中に行われる4回のコンテストの結果を合わせてスペイン大会に対する日本代表を次のように決めました。

浅野 知紘	灘高等学校	3年	
今村 志郎	灘高等学校	2年	
関 典史	灘高等学校	3年	（昨年銀メダル受賞）
副島 真	筑波大学附属駒場高等学校	2年	（昨年金メダル受賞）
滝間 太基	筑波大学附属駒場高等学校	2年	（昨年銀メダル受賞）
保坂 和宏	開成高等学校	2年	

今年は日本代表を含めて日本数学オリンピック、日本ジュニア数学オリンピックの国内表彰者に対し、4月下旬から日本代表が発券するまで5回に亘って通信添削を行いました。これは第一義的には代表になった生徒が春の合宿終了から世界大会までに実力を維持向上することが目的なのですが、その対象を今年から拡大したわけです。

本選と春の合宿の間の3月11日に第20回目のアジア太平洋数学オリンピック大会（A

PMO)が行われました。この大会参加資格者は過去及び今年の春の合宿参加者という事になっており、38名が参加して、その内10名の成績上位者が日本代表ということで開催国の韓国に成績を送りました。結果は以下の通りでした。

金賞	副島 真	筑波大学附属駒場高等学校	1年 (国内最優秀者)
銀賞	片岡 俊基	高田高等学校	3年
銀賞	吉田 雄紀	灘高等学校	3年
銅賞	松田 冬樹	藤島高等学校	3年
銅賞	荒野 悠輝	桐朋高等学校	3年
銅賞	川島 夢人	筑波大学駒場高等学校	3年
銅賞	関 典史	灘高等学校	2年
優秀賞	今村 志郎	灘高等学校	1年
優秀賞	井上 卓也	大阪教育大学附属高校天王寺校舎	3年
優秀賞	井上 秀太郎	灘中学校	3年

(学年は、2008年3月現在)

今年は参加国数28ヶ国で、国別順位は2位で昨年と同じ。残念ながら昨年優勝の韓国を抜いて優勝という事にはなりませんでしたが、今年は強国ロシアが参加した上での2位でしたので立派なものだと思っています。1. 韓国 2. 日本 3. アメリカ 4. 台湾 5. ロシア 7. オーストラリア 8. 香港 9. アルゼンチン 10. カザフスタン
総受験者は256人、金賞13人、銀賞32人、銅賞69人、優秀賞29人と報告されています。

またジュニア数学オリンピックの底辺拡大を目的として、今年から、地区別表彰を行いました。これは全国表彰だけでは、殆ど東京圏、関西圏だけになってしまいますので、地方の生徒が目標と出来る行事を設定しようとして始めたものです。全国を15地区に分け、各地区の受験者の凡そ1割を表彰しました。表彰総数95名、表彰状と盾を各学校長を通じて送りました。

8月末には30名ほどの生徒が参加して山梨県の清里で夏季セミナーが実施されます。日本数学会の会員の皆様にも講師としてご依頼する事もありますので、その折はよろしくお願ひします。